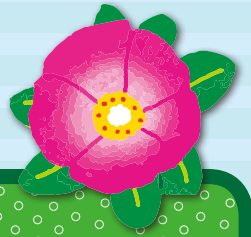


うみ あお やま みどり  
海の青・山の緑



# 大地のめぐみ

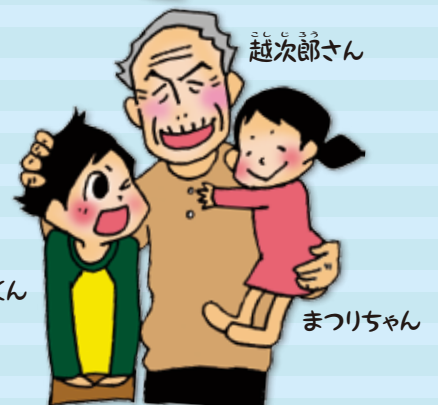


どろ きしょうがっこう いねの かり取り たいげん  
轟木小学校での稲のかり取り体験



おりかさ ぼ  
織笠小学校でのイモ掘り

やまだ ゆた  
山田には豊かな大地の  
めぐみがあるんだよ!



かい た  
海大くん

まつりちゃん

# 大地のめぐみと森を守る人びと

山田町には、豊富な種類の農産物・林産物があります。

## 野菜・花卉

豊間根・荒川地区、  
織笠・白石地区、船越地区など



ホウレンソウ



トマト



ムラサキダイコン

ナス



カボチャ



## 花卉を作る グリーンハート 藤原聖児さんのお話

季節にあわせて花の苗をあつかうようになったのは、20年ほど前、国道45号ぞいの花壇がきっかけでした。今でも国道ぞいの花壇には、うちの苗が植えられています。

道の駅でも販売していますから、買ってもらった苗がどこか遠くで花を咲かせているのではと思うといい気分になります。

生き物が相手でなかなか気がぬけない仕事ですが、これからは観光農園など、もっとみんなに楽しんでもらえるようなことにも取り組みたいと思っています。



ビオラ類



ハボタン



ベゴニア(奥)・  
マリーゴールド  
(手前)



シクラメン



## 野菜を作る いわき農園 岩城創さんのお話

できるだけ農薬や化学肥料を使わず、ハウレンソウ

ウなどハウス野菜を中心に10数品目の野菜を作っています。私はもともと会社員で、会社の都合で職場がなくなったときに旅に出て、農業を手伝いながら2年間、オーストラリアなどをまわりました。帰国したときに農業を始めようと思ひ、一関市で2年間研修を受け、山田町で土地を借りて農業を始めました。

始めてから7年、だんだん生産力は上がってきました。農業が楽しくてしかたありません。法人化も予定し、野菜の販売だけでなく料理教室、農業体験ツーリズムなども始めたところ

## 稲作

豊間根・荒川地区、  
織笠地区など



稲かりのようす(織笠地区)



田植えのようす(荒川地区)

4・5ページ

## 林産物

町内山間部全域



マツタケ



6ページ

シイタケ

## コラム

山田町の農業は、大規模ではありませんが農作物の種類が多く、質がいいという特徴があります。豊かなめぐみは、森から供給されるきれいな水あつてのこと。森を守るのは、農業を守ることでもあります。



植林作業のようす(大沢地区)

## 森を守る:宮古地方森林組合

森林には、水をたくわえる、土砂くずれを防ぐ、空気をきれいする、風を防ぐ、さまざまな生き物のすみかになるなどの役割があります。

写真は山田町の間伐のようすです。木をより大きく育てるため、植えて43~62年めのスギやアカマツの林からあまり大きくなっていない木を切りたおし、森の手入れをします。木を植えてから木材として利用するまでに2~3回の間伐が必要です。



たおした木を丸太にする(造材)ようす

この森は土がくずれやすく、作業のための道路をつくるのに苦労しました。道路がある程度できたら、木を切りたおす、木を丸太にする、丸太を集め運び出すといった作業も並行して進めていきます。午後4時には暗くなってしまうから、朝早くからの仕事です。

手入れした森がきれいになって日の光が入るようになったとき、あるいは木材が運び出されるときなど、仕事の結果が見えたときに一番のやりがいを感じます。



このチームで約20ヘクタールの間伐を担当しています。



チェーンソーで木を切りたおす(伐倒)ようす



# 一膳のご飯ができるまで

お米が「ご飯」として食卓に上がるまでを見てみましょう。

## 育苗

### 土づくり



### 育苗準備

田んぼを深く耕し、わらや肥料を入れて土の力をたくわえます。また、苗を育てる場所や道具を消毒しておきます。

### 消毒



種もみを消毒し、たっぷり水をふくませ、育苗箱にまいて育てます。寒い時期はビニールトンネルで温かくして育てます。

### 精米



### 乾燥・脱穀



よく乾かしてから脱穀します。

お米が作られるようすを見てみよう。



## 小学生の稲作体験



みんな楽しそうだね。

## 豊間根小学校田植え体験

手作業での田植えを体験しました。





農業は景観を守ること、そして山田を発展させること  
小林隆広さんのお話

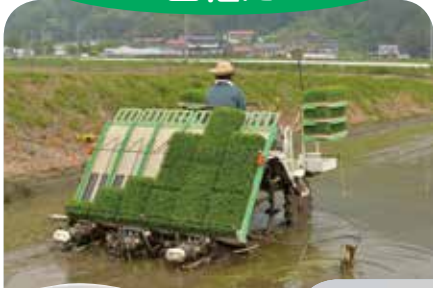
農業高校に入ってから、大学を出てJAに5年間勤めるまで、山田町を離れていました。家業の農家を継いだのは、震災の暮れに父を亡くしたことがきっかけです。

沿岸部の農業は気候や交通の面などで不利だとよく言われますが、作る品種や販売先の工夫でまだまだ発展していけると思います。

自分が手塩にかけて作ったものは格別の味がします。その感動をみんなにも味わってもらいたくて、小中学生の農業体験に協力しています。

震災で被害にあった田んぼや畑も元の美しさをとり戻しつつあります。この景観を守るとは山田町の発展にもつながります。みんなで力を合わせ、工夫して、山田町を発展させていきましょう。

田植え



田植え機による田植えのようすです。

活着・分けつ



「活着」とは、苗が新しい根を出して田んぼに根づき、新しい葉をのぼす時期のこと。「分けつ」とは、苗がつつぎと茎を増やしていく時期のことです。

収穫



コンバインによる収穫のようすです。

出穂



イネの穂が出て、花が咲きます。

病虫害駆除



イネにつく害虫としては、写真のイナゴのほか、ウンカ、カメムシ、ツマグロヨコバイなどがいます。

中干し



根をじょうぶにし、茎の数を調整するために、一時期だけ田んぼにヒビが入るくらい乾かします。

轟木小学校脱穀体験

千歯こきでの脱穀を体験しました。



荒川小学校収穫感謝祭

自分たちで作ったお米でもちをつきました。



# シイタケが出荷されるまで

「シイタケ名人(全国品評会で最高の農林水産大臣賞受賞歴10回以上の人を対象)」と呼ばれる人は全国で3人。そのうちの二人、芳賀計市さん、芳賀栄三さんが山田町の人です。ここでは、そのうちの一人、芳賀栄三さんによるシイタケのハウス栽培を見てみましょう。

## 原木の準備 たまきり

シイタケを育てるナラの木(原木)を切って丸太にすることを「たまきり」と言います。



## コマ打ち(植菌)

春、原木にドリルで穴をあけ、木片にシイタケの菌糸を培養したもの(コマ)を、直径10センチの原木で、1本につき23~25個打ち込みます。



## 本ぶせ



原木は、11月にハウスに入れて組まれます(本ぶせ)。寒い時期にゆっくりと傘を開かせることで肉厚になり、味も香りもよくなります。ハウス内で散水するなど、温度・湿度の管理が重要です。

## しゅうかく



しゅうかくは12月~3月ごろです。また、自然栽培では5月ごろまでしゅうかくします。原木は5~10年は使えます。

## 袋がけ



12月ごろ、保温・保湿のための袋をかけます。

## 成長



## シイタケ名人 芳賀栄三さんのお話

しゅうかくしたシイタケを干しシイタケに加工し、産直や個人へ1年365日出荷することが私の生きがいです。小学校の子どもたちにシイタケ栽培を体験してもらおうとき、必ず「大きくなって都会に行ったら、山田町には日本一のシイタケがあると言うように」と伝えていきます。

一番の問題は後継者です。シイタケ栽培は面白くてやりがいのある仕事ですが、木の見方・積み方・散水の仕方・収穫・機械の手入れなど、一人前になるには覚えることがたくさんあり、少なくとも3~4年はかかります。よい作り手がたくさんいて、お互いに競争して初めてよい産地になります。今のうちに一人でも多くの人を育てたいと考えています。

しらべてみよう

自分の住む地域には、どんな農林産物があるだろう。